

【畑かん営農状況】

町内畑かん地区の作付状況を見てみると、春夏作の約5割が「さつまいも」となっており、次いで飼料作物が約2割となっています。

さつまいもの植え付け時期や生育期には水が必要となります。畑かんの水を利用することで、これまでの雨まち農業ではなく計画的な植え付けや雇用による農業生産が可能になります。

また、裏作の土地利用率高め、畑かん受益地区ならではの水利利用効果の高い露地野菜などの高収益品目の生産が拡大することが期待されます。

(参考) 水利利用効果のある作物例

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	かん水効果【増収率】
さつまいも		植付前 30t		植付後3日間 連続かん水5t					収穫1ヶ月前から 乾燥状態				115% (実証データより)
新ゴボウ	収穫時には乾燥						基礎水 30t		7日おき 20t		10日おき20t	収穫時には乾燥	127% (実証データより)
さといも	植付前 30t		7日おき 20t		7日おき 20t			5日おき30t	収穫2週間前からかん水控える				132% (実証データより)

● は種 ▲ 定植 ■ 収穫
※畑かん営農部会による実証データより

散水器具の導入補助について

肝属中部地区畑かん事業の受益地において、畑かんの水を使っの農業への取り組みを考えている農家に対して、2割程度の自己資金で右に記載されている器具や、県が定める畑かん散水器具を導入することができます。ただし、事業の実施期間中に限られます。

お願いです!!

導入する場合、導入の前年度に畑の形状や面積に合わせての設計などを行い、その結果を基に次年度設置することとなっており、**2年程度の期間がかかります。**

導入を考えている方は、お早めにご相談ください。



ローカー（自走式散水装置）



地下埋設固定配管散水器具

問い合わせ先：肝付町役場 農業振興課 農政係 ☎ 65-8417（直通）